

平泉澄博士との関わり私的略年譜 (年齢はすべて数え)

(日本学協会理事・藝林会顧問) 所 功

昭 25(1950)年 4月	学術雑誌『藝林』創刊／翌 26年 4月、一般雑誌『桃李』(のち『日本』) 創刊
〃 29(1954)年 7月	日本学協会主催「千早鍛錬会」再開／ 11月、博士(60)東京に歴史研究室開設
〃 32(1957)年 8月	博士(63)門下稲川誠一教諭(32)に引率され高 2 の所(17)ら千早鍛錬会初参加
〃 35(1960)年 4月	博士(66)門下市村真一教授ら指導の関西学生研修会に大 1 の所(21)ら参加
〃 36(1961)年 11月	博士(67)『近世日本国民史』出版記念会講演に上京し大 2 の所(21)ら拝聴
〃 37(1962)年 10月	田中卓教授(42)指導の「伊勢青々塾」に所(24)ら入塾、博士(70)開塾講義
〃 41(1966)年 11月	田中教授(44)「建国記念の日」審議会意見陳述準備を助手の所(26)ら手伝い
〃 43(1968)年 5月	市村教授(44)続『先哲を仰ぐ』の校正を谷省吾教授(48)の下で所(28)ら手伝い
〃 45(1970)年 5月	博士(76)後継坂本太郎教授(70)の推薦で所(30)人物叢書『三善清行』出版
〃 47(1972)年 7月	所(32)ソロモン戦蹟慰霊巡拝に先立ち、博士(78)木碑「忠魂」揮毫
〃 48(1973)年 8月	『月刊千早』創刊、所(33)ら編集担当(のち田辺裕ら担当)
〃 50(1975)年 4月	博士(81)門下村尾次郎氏(62)の後任として所(35)文部省教科書調査官着任
〃 54(1979)年 5月	村尾氏(65)「元号法案」参議院内閣委員会意見陳述準備を所(39)手伝い
〃 56(1981)年 4月	博士(86)、京都産業大学へ転勤した所(41)に懇切な教示(※)
〃 57(1982)年 10月	博士(88)福井での米寿祝賀会に所(42)ら参上、最後の講話拝聴
〃 59(1984)年 2月	博士(90)平泉寺白山神社で逝去。神葬祭(祭主谷省吾教授)に所(44)ら参列
平元(1989)年 4月	博士門下の小川常人・時野谷滋両代表の下で所(49)『藝林』編集長
〃 4(1992)年 10月	藝林会編『順徳天皇とその周辺』(順徳天皇 750 年祭記念) 出版
〃 5(1993)年 10月	博士門下の白山桂三氏(72)逝去により市村教授の下で所(54)ら関西例会補佐
〃 10(1998)年 2月	田中卓(76)編『平泉澄博士史論抄』の解説、所(58)ら分担執筆
〃 16(2004)年 2月	田中卓(82)編『平泉澄博士全著作紹介』の解題、所(64)ら分担執筆
〃 18(2006)年 10月	時野谷滋(81)の逝去により所(66)藝林会代表(～ 24 年 3 月)
〃 24(2012)年 12月	田中卓(90)続著作集 5『平泉史学の神髄』編刊を所(72)ら手伝い
〃 26(2014)年 5月	平泉隆房(61)解説『平泉澄博士神道論抄』編刊を所(74)ら手伝い
11月	日本学教会創立 60 年記念藝林会学術大会「平泉澄博士をめぐる諸問題」開催

※「学界に貢献しうる独自の構想を立て、精緻な論考を書き続けて、学問の大成を目指すことが重要です。和田英松博士の『官職要解』『建武年中行事註解』に校訂解説を加え、講談社の学術文庫として出せるように、近藤啓吾さん飯田瑞穂さんに話しておくから、しっかり準備してください。平安宮廷の儀式行事に関する文献研究をするにしても、田中卓博士の古典研究と時野谷滋博士の制度研究とを十分に学び取り、和田先生の皇室研究を継承発展させてほしいと念じています。」(面談要旨)